第７７回（令和６年７月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

地球上に生きている動植物の体は、ほとんどが水でできているという話をよく聞きます 40
が、普段はこれを意識することはあまりないでしょう。また、スイカの断面を見て９割が 80
水分だと言われれば納得できますが、わたしたち人間をはじめとする動物については、外 120
から見ただけでは分かりません。なぜなら、そのほとんどが体の各部位の細胞に取り込ま 160
れており、そこでタンパク質や糖などと結び付いて、ゼリー状となり保たれているからで 200
す。体内におけるこの物質の比率は、厳密にいえば年齢によって異なりますが、成人男性 240
であれば、体重の４割ほどなのだそうです。部位ごとにも違いがあり、脂肪の中には少な 280
く、皮膚や筋肉に多く含まれています。一般的にそれらの量は性別によって差があり、生 320
活習慣などの条件が同じでも、女性の方が少ないといわれています。 352

さて、時として地球上の生物は、乾燥により命の危険にさらされることがあります。そ 392
こで、厳しい環境に適応するために進化を遂げた動植物がいます。例えば、葉を針状にす 432
ることで内部からの蒸発を防いで、さらにそこから水分を取り入れてため込むことも可能 472
にしたとされているのが、サボテンです。他にもラクダは、１回で８０リットルもの水を 512
飲むことができ、それを血液中に蓄えることができるといいます。また、過酷な環境に耐 552
えられる仕組みを持つことから、近年の研究で注目されているのがクマムシです。彼らの 592
体長は１ミリメートルほどしかなく、肉眼では確認するのが難しいくらい小さいですが、 632
環境の変化に対する耐性は地上最強ともいわれるほどです。彼らは著しく乾燥した状況に 672
置かれると、体を丸めて干からびたような見た目になり、すべての代謝が停止します。こ 712
の状態になると通常は生物が生き続けるには厳しい温度の他、真空や超高圧、さらには強 752
い放射線にも耐えることができるというのです。そのような極限の環境から脱した後、水 792
分を得ると１０分ほどで何事もなかったかのように動き出すというから驚きです。 830

残念ながらわたしたちには、そのような能力は備わっていません。そのため、昔の人々 870
は、生命を維持しながら快適に暮らすために、湖や川の近くに集落を形成し、定住を始め 910
たといわれています。しかし、いつしか人口が増えてくると、その場所だけでは足りなく 950
なっていきました。そこで彼らは、より広い土地を求めて移動するようになり、湖や川な 990
どから離れた場所に住むようになっていきました。そうなると、多くの人々の暮らしや生 1,030
まれた産業などを支えるために、それまでよりもさらに水が必要となる他、遠く離れた水 1,070
源から都へ、いかに速く簡単に運ぶかを考えなくてはなりません。こうした問題を解決す 1,110
るために、紀元前８００年ごろの古代ローマの都市で工事が行われました。傾斜を付けた 1,150
長いトンネルや橋を建設して溝を掘り、そこを通して都まで引き込んだのです。これが水 1,190
道の始まりだといわれています。 1,206

ある日、原始時代と聞いてわたしの頭に浮かんできたのは、動物の毛皮を身に着け、枝 1,246
の先に石を縛り付けた武器を手にした人の姿です。これは漫画やテレビなどを見て影響を 1,286
受けたせいかもしれません。では実際に、その時代の日本人は、一体どのようなものを着 1,326
て過ごしていたのでしょうか。 1,341

縄文時代の遺跡からは、古くから衣類の原料として活用されてきた麻の種が発掘されて 1,381

いる他、その繊維で編んだ縄を押し付けて、模様にした土器も見つかっています。弥生時 1,421
代の遺跡からは、野山に自生するフジのつるを洗って皮を外し、糸状にほぐして織った布 1,461
が発見されています。このことからも分かるように、わたしの想像よりはるか昔から、日 1,501
本人は織物を身に着けていたと考えられているのです。 1,527

では、毛皮に関してはどうだったのでしょう。防寒用や敷物などには、とても適してい 1,567
ると思います。厳しい冬を越すには、柔らかくて暖かい毛皮がたくさん欲しいところです 1,607
が、近くで狩った獲物だけで間に合わせようとしても、中には衣類に向かない種類もあっ 1,647
たでしょう。さらに、当時使われていた猟具から考えると、絶対的に量が足りなかったと 1,687
想像できますし、都合よく手に入るとは限りません。そこで知恵を絞った人間は、今から 1,727
約１万年前に家畜としてヒツジを飼い始めました。彼らの体には、驚くことに５０００万 1,767
本もの毛が密集しており、１本ずつが細かく縮れていてたくさんの空気を含むことができ 1,807
ることから、保温性に優れているそうです。初めは、刈り取ったものをそのまま防寒用や 1,847
敷物として使っていたようですが、紀元前５世紀ごろになると、糸に紡いで織ったもので 1,887
衣服やじゅうたんが作られるようになりました。ただし、わが国でこれを衣服の原料とし 1,927
てきた歴史は浅く、１５０年にも満たないそうです。また、これを用いた製品が国内で作 1,967
られるようになったのは、明治時代になって鎖国が解かれてからのことです。原料を外国 2,007
から輸入し、国内で製造するという独自の形で広がりました。それには、幾つかの理由が 2,047
あります。夏に多湿となる日本の気候がヒツジの飼育には不向きであること、不純物の少 2,087
ない美しい毛を育てるには、放牧して運動をさせる必要がありますが、広い土地を十分に 2,127
確保できなかったなどの事情があったようです。 2,150

カイコの繭から取り出した糸で作られている絹織物は、中国が始まりだといわれていま 2,190
す。約４７００年前の同国の遺跡から発見されていることから、非常に長い歴史を持って 2,230
いるといえます。長きにわたってその技術は秘密とされてきましたが、やがてヨーロッパ 2,270
などと貿易が始まると製品自体は各国へと伝わり、世界中に広まっていきます。当時、同 2,310
じ重さの金と交換されるほど、大変貴重なものとして扱われていたそうです。わが国でも 2,350
古事記に登場していることから、一部の貴族の間ではかなり古くから知られていたことが 2,390
分かります。純白で半透明なこの糸には、光を通す性質があり、表面で反射したものと内 2,430
部を通過して屈折したものが組み合わさって、他にはない光沢を放ちます。これが、今も 2,470
世界中の人々を引きつけているのです。 2,489

このように、人類は身を守ったり美しく着飾ったりするために、天然繊維の中から最も 2,529
適したものを選び、工夫して利用してきました。現代では、技術の進歩によってさまざま 2,569
な特長を備えた新しい素材による製品も生み出されています。 2,597